

分科会名	アセスメントノウハウ分科会	2006 年より活動
<p>【対象者】</p> <p>以下の条件に該当する、SEPGまたは開発現場の方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開発現場の真の問題点を抽出し改善するためのアセスメントの経験、またはその手法に興味がある方 ・ CMMI 評定経験者(Class A～C 問わず)で、SCAMPI に則ると工数がかかると感じたことがある方 ・ 「こういうアセスメントを受けたい」という思いがある方 ・ アセスメントのメリット・デメリットを知りたい方 		
<p>【本年度の活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アセスメントは、診断者・被診断者とも負荷が高く、それに見合う価値が得られていないのではないかと いう印象があり、本来のアセスメントの意義が失われる懸念がある。本分科会では当初より、前述した課 題認識に基づき、アセスメントの重要性・必要性を認識しながら、効果的なアセスメントとはどうあるべき か、アセスメントをどう活用するかという議論を重ね、アセスメントのキーワードとして抽出し、“キーワード 抽出ツール”や“APG ツール(Assessment Process Generator)”にまとめてきた。 ・ 今年度は、これまでの活動を踏まえて原点に戻り、アセスメントの重要性・必要性について再度考え直し てみたい。そして、アセスメントの効果・期待・成果を“アセスメントマニフェスト”として纏め上げ、アセスメ ントへの認識を高めることを目指す。 現時点で、アセスメントマニフェストに記載する「大前提」については当分科会内での合意に至った。 今後継続して、「価値」および「原則」について議論を進める予定。 		
<p>【これまでの成果物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2006-2007: SEI 認定 CMMI リードアプレーザや、プロセス改善経験が豊富なメンバーらとブレインストーミ ングを重ね、アセスメントを実施する上で考慮すべきキーワードを整理した“キーワード一覧”を作成。 ・ 2007-2008: 前述の“キーワード一覧”と“ARC (Appraisal Requirements for CMMI) Ver1.2”との対応付け を行い、SCAMPI の要求事項と対比してキーワードの抜け漏れを精査することでアセスメントの流れを考 慮しつつ、“キーワード抽出ツール”を作成。 ・ 2008-2009: SPEAK-IPA 版を参考にして分類・整理しつつ、公開討論等での現場の声を参考にして、 “キーワード抽出ツール”の内容を充実し(キーワード数→約2倍、実施内容(How)数→約9倍)、アセス メントの「シーン」を新たに定義し、シーンに応じた具体例(Howの部分)に当たる「バリエーション」という 概念を追加して、アセスメントプロセスを構築する“APG ツール”の原型を作成。 ・ 2010- : “アセスメントマニフェスト”に記述する大前提は次のとおり。 「我々は、アセスメントはその後の(現場の)改善活動のために行なわれることを信じる」 		